Go West !

佐賀県立唐津西高等学校
学校だより　NO.16　R4.12.1
【建学の精神】朝(あした)に希望　夕べに感謝
文責　学校長　下村　昌弘
E-Mail　shimomura-masahiro@education.saga.jp

『ドライブ・マイ・カー』と『silent サイレント』に通底するもの

今年３月、濱口竜介監督『ドライブ・マイ・カー』（村上春樹原作）が第 94 回アカデミー賞の国際長編映画賞に輝いた。

2021 ドライブ・マイ・カー制作委員会 HP から

妻を亡くした演出家であり俳優でもある主人公が専属運転手となった女性やそのほかのキャストとの交流をとおして自分自身と向き合う物語だ。深い喪失感が広島や北海道との風景と響きあっていて切ない。そして劇中劇とでもいうのか、物語の中にチェーホフの『ワーニャ伯父さん』などの戯曲が織り込まれていてパラレルワールド的な奥深さを感じる。

上映時間は約３時間。今どきめずらしい。長くて耐えられるだろうかと、観る前には心配した私も、劇場とネットで少なくとも３回は観てしまった。そして気になるセリフは何度も何度も聞き直した。派手な BGM はない。あるのは意味深なセリフだった。

一方、『silent サイレント』。これはフジテレビ系のドラマで若い人たちの間で人気だという。

高校卒業後に分かれたカップルが ８ 年後に再会するが、その時男性は聴覚障害を抱えていた、、、。音のない世界で出会い直すという切なくも温かい恋愛譚(たん)。ある生徒によると、派手な展開はないが心が繊細に描かれているらしい。手話も多く、全体的に静かで、ながら見したり、倍速で早送りしたりしてみるには不向きのようだ。

コロナ禍の中、オンラインによる取組が増えた。研修もオンライン、オンデマンドで視聴。おかげで早送りして効率が良くなったようにも思う。私も 1.2～1.4 倍速がいい感じに思えた。若い人ほどこうした傾向が強く、ビデオも倍速、歌はサビだけ聴く。

こういう傾向からすると、前述の２作品はその対極にあると言える。

丁寧に作られたものを時間や手間をかけてじっくりと味わう、そんな感じだ。共感できるものや大切な体験、そして考えるには時間のかかりそうな重たい、しかし重要なテーマにしっかりと寄り添わせてくれる何かがある。そういう作品たちがコロナ禍を経た今、耳目を集めていることになんとなく安堵を覚える。この時代もあながち捨てたものではないのではないかと。

さて、本校は今、総合的な探究の時間を中核に据えた教育を推進している。本校が目指す“探究”が、『ドライブ・マイ・カー』や『Silent サイレント』よろしく、一人一人生徒の中でゆっくりじっくり深掘りするものに育っていけばいいと思っている。

旅は人を成長させる！　－2 年生修学旅行　成功裏に終える－

11 月 14 日～17 日、３泊４日の日程で神戸・京都・奈良への修学旅行を行った。コロナ第８波の猛威を感じつつ、外国人旅行者の受入れ状況や社会経済の日常復帰の現状に鑑(かんが)み、通常

の感染症対策を徹底することで修学旅行を決行した。

海遊館のアザラシ

結果、修学旅行に起因するコロナ感染もなく、計画した全活動を無事終えることができた。

2年生も日に日に時間厳守の感覚や周囲への配慮などにおいて意識の高さがうかがえるようになり、“かわいい子には旅をさせよ”だなあとしみじみ感じた。

ところで、修学旅行に当たって2つのことを話した。一つは、体験を体験に終わらせない、修学旅行は探究活動の一環だから、深掘りするポイントを探して来てほしいということ。そしてもう一つは、修学旅行は高校生活において特筆に値するビックイベントなので友達との多くの思い出を作ってほしいということ。

後者については、全員にとって無条件に記憶に残る行事となったことは、例えばUSJで多くの生徒（職員も？）が被り物をして出てきたところからも疑いないだろう。楽しい思い出ができたようだ。しかし、前者についてはどうだろうか、少し心もとなかった、、、、。

例えば、震災記念館訪問やSDGsを窓口とした京都探訪、海遊館見学もあった。一般的にはそういうところが探究のきっかけや何某（なにがし）かの刺激になったかもしれない。

しかし、ある生徒と話をしていて思わず唸（うな）ってしまった。

その生徒はUSJで問題意識の糸口をつかんだらしい。「USJの自販機って市価の2倍以上でした。どういう流通の仕組みなんですかね」。「ハウステンボスに行ったことがあるのですが、テーマパークの今と昔ってどう違うんですかね」。「アトラクションに並んでたら係の人がチェーンロープを色々な方向に架け替えて誘導していた。あれってどういうパターンがあるのかな」。

なるほど、ちょっとしたところかもしれないが、さすが西高生、これまでの日常経験に照らしてなかなかいいところに気が付いている。これからはそれらを深掘りしていって学びの形に整えてほしい。うまく形にならなくても“疑問を持つ”ことが大切だ。

税金って暮らしを支えてくれているんだ！　－税の作文入賞－

唐津市租税教育推進協議会が主催する「税に関する高校生の作文」で末永惇（じゅん）さんと中川明香里さん（ともに1年）が会長賞を受賞した。

末永さんは高齢になったら自分たちも今よりずっと税により支えてもらう必要があることから「税金は払わせられているのではなく、自らの意思で払うべきだ！」ということを、中川さんは「外国に比べ、日本は税金により無料で救急車が呼ぶことができ安心して生活が送れているのだ」ということを作文に認（したた）めた。

なかなかすぐには“税金”は見えないけれど、日常生活の中には税金に支えられていることは案外多いものだ。

【12月前半の主な行事】
１２月　１日（木）防犯・薬物乱用防止講演（全学年）
２日（金）公務員ガイダンス（1・2年）
３日（土）チャレンジセミナー・学習会
８日（木）読書会（1・2年）・佐賀誇り講演会（3年）